

(法第28条第1項)

## 平成30年度 事業報告

特定非営利活動法人 千葉自然学校

平成30年度は、平成最後の年となりましたが、日本列島では、大雨、台風、大規模、地震そして記録的な猛暑などの自然災害が多発した年と成りました。

自然相手を主な仕事とする千葉自然学校においても、こうした自然現象により各施設や公園などの利用者数、各種プログラムの集客に影響が出たため、主力部門で事業計画を達成出来ないなど厳しい経営状況となりました。

また、長年の課題となっております冬期の集客対策については、雪国をはじめ首都圏周辺の大学等のスポーツクラブへ新たに誘致活動をしました。

その結果、新規の受け入れが幾つか実現しましたが、更なる増加を図るため本格的な誘致活動による閑散期対策を進めたいと考えています。

一方、経営の柱の一つである行政、企業・団体等からの事業受託は、これまでの実績を評価いただき、受託数は堅調に推移しました。

これら各事業を実施するにあたっては、出来るだけ経費を節約するよう努めました。しかし、各部門の利用者数の減少に加えて、国の働き方改革に沿った見直しにより、若手、中堅層の給与の底上げ、手当の新設などによる人件費の高騰、猛暑による施設の冷房用の燃料費の高騰及び各所の修繕費増などにより、赤字決算となりました。

こうした状況に対処するために今年度においては、

1. 赤字の主な原因である人件費負担を軽減するため、人員配置の見直しにより3名の正規職員の減及び働き方改革に伴う国からの助成金の交付などにより赤字解消が出来る見通しとなりました。
2. 経営の柱となる施設の利用者数及び自主事業、ヤックス自然学校の集客数の増加は、気象状況等の影響を受けますが、有効な広報について再検証し、集客力の強化に努めます。
3. 茅葺古民家「ろくすけ」、体験農園 in 岩名及び千葉シニア自然大学の事業は、社会貢献的な要素もありますが、それぞれが自立できるような体制づくりに努めます。古民家ろくすけ事業については、改修等が一段落し、本格的な活用の段階にきましたので、自立運営を目指します。体験農園 in 岩名、千葉シニア自然大学については、年々の実績を重ねることにより、一定の参加者数を確保できる状況になって来ており、更なる伸長に努めます。
4. ネットワークについては、3月の総会の際に「これからのネットワークの在り方」について協議しましたが、その結論に沿って進めて行きたいと考えています。まず運営委員会を立ち上げ、会員校、理事、そして千葉自然学校が協力して運営する仕組みをスタートさせたいと考えています。

5. 認定 NPO 法人への取り組みは、2 年目となりますが、認定の絶対的要件となる、一人 3, 0 0 0 円以上で 1 0 0 名以上からの寄附と言う、二条件を安定して達成できる状況になれば、令和 2 年 4 月以降に申請をしたいと考えています。

令和と言う新しい時代を迎え、設立以来のさまざまな課題に真摯に向き合い、『選択と集中』により設立の理念の実現と自然学校に係る誰もが希望の持てる組織となるために、役職員が共に努力をして行きたいと考えています。